

トークイベント

プレゼンバトル 古美術編

二人は何を選ぶのか!?

美術史家

山下裕二

総館長

VS 中山喜一郎

当館のコレクションは、重要文化財《薬師如来立像》《色絵吉野山図茶壺》《花籠図》をはじめとする古美術から、ミロ、ダリ、シャガールなど近現代美術の名品まで多岐にわたり、その総数は16,000点を超えます。今回は、その魅力をお伝えすべく、美術をこよなく愛する山下裕二氏（美術史家）と中山喜一郎（当館総館長）が、数々の名品の中から古美術コレクションに絞り、作品の魅力を語ります。当館は初めてという方にも、足しげく通っておられるという方にも、新たな発見があること間違いなし！会場でお二人の熱いバトルを体感ください。

要申込

2023.11/23 (木・祝) 14:00-15:30 (開場 13:30～)

会場：福岡市美術館 1階 ミュージアムホール 定員：180人 料金：無料

申込方法：申込専用サイトから応募ください。1件につき2名まで受付可。申込締切：11月5日(日)

※応募多数の場合は、抽選。 ※当選者の発表は聴講券の発送をもってかえさせていただきます。

申込
専用サイト



福岡市美術館

FUKUOKA ART MUSEUM



プレゼンバトルとは？

今回は、お題に沿って、お二人が約4500点の古美術作品の中から逸品をセレクトします。その作品の魅力をバトル形式で披露。個人的偏愛鑑賞法を熱く語っていただきます。果たしてお二人はどの古美術作品を選ぶのか!?ここでしか聞けない話をお楽しみください。

＼お題はコチラ／

超絶技巧

ユーモア

威風堂々

カワイイ

これ欲しい!



【福岡市美術館コレクションの名品たち】



1



2



3



4



5



6

福岡市美術館 コレクション

当館のコレクションには、近現代美術と、江戸時代以前の古美術とが共存しています。作品が生まれた時間的空間的幅も、紀元前5000年頃から紀元後2000年代、日本からアジア、ヨーロッパ、アメリカなど実に広く、作品の形状も絵画、彫刻、映像から屏風、陶磁器、染織と多岐にわたり、その総数は16,000点を超えました。この多様さ・多彩さこそが、当館のコレクションの最大の特徴です。

※左記作品は、プレゼンバトルの
選定作品とは限りません。



山下裕二 美術史家

1958年、広島県呉市生まれ。東京大学文学部美術史学科卒業、同大学院修了。明治学院大学文学部芸術学科教授。雪舟をはじめとする室町水墨画の研究を起点として、縄文から現代まで、幅広く日本美術史のアップデートを試みている。近年監修した展覧会として、「コレクター・福富太郎の眼」、近著に『商業美術家の逆襲 もうひとつの日本美術史』（NHK出版新書）などがある。



中山喜一郎

福岡市美術館総館長

専門分野は日本近世絵画。1981年から福岡市美術館学芸員。古代文明から現代作家、サブカルチャーまで様々な特別展を約30本企画。福岡市博物館学芸課長、美術館運営部長、副館長、館長などを経て2020年より現職。主な著書として『別冊太陽 ユーモアあふれる禅のこころ 仙厓』（監修・共著、平凡社、2016年）、『仙厓の○△□ 無法の禅画を楽しむ法』（弦書房、2003年）など。

